





令和6年度（2024年度）学校版環境ISOへの取組

< 学校名：熊本市立弓削小学校 >

2 取組の概要報告

(1) 取組の概要

項目	活動の様子（写真）	取組の実際
宣言		<p>○5年生による「弓削小環境 ISO 宣言」</p> <p>「弓削小環境 ISO 宣言」の一つである、廃油リサイクルについて全校児童（一部の保護者）に環境宣言を行う。すべての学年にとって分かりやすい宣言であった。</p> <p>その他の保護者や地域の人々に関しては、協力をお願いするプリントを配付し、広報活動に積極的に取り組む。</p>
行動	 <p>「ゆげっこ活動」において、縦割り班で草花の手入れをしている様子</p> 	<p>○全校児童が「弓削小環境 ISO 宣言」を確認</p> <p>朝自習や給食の時間を活用して、緑化委員や5年生を中心とした児童が、動画を使ったり実物を用いて例示したりして、環境宣言の行動目標などの啓発活動を各クラスに対して行う。</p> <p>○朝のボランティア活動</p> <p>朝のボランティア活動や「さわやかふるさとデー」に、高学年を中心に花壇の手入れや落ち葉の清掃などを行う。</p> <p>○「ゆげっこ活動」</p> <p>緑化委員を中心に進め、月に一度縦割り班または学級単位で草花の手入れを行う。また、「切り花届け隊（ボランティア）」も育てた花をペットボトル花瓶に生け、靴箱やトイレに飾る活動を行う。</p> <p>○5年生を中心としたボランティア活動</p> <p>登校時間を利用して、家庭や地域で出た廃油の回収作業を行う。回収した廃油は、協力業者を通じて、CO₂の削減に努める。</p> <p>○PTA 美化委員会と連携して、花壇の花苗植えを児童と共に行う。</p>

記録	<div data-bbox="288 197 810 667" data-label="Figure"> <p>BDF原料提供のご協力</p> <h2>回収量ランキング</h2> <p>1 弓削小学校</p> <p>全校一人当たりの回収量</p> <p>回収量 880 ml</p> <p>CO₂削減量換算 448 kg-CO₂</p> </div> <p>「株式会社 未来樹」のホームページから</p>	<p>○廃油回収について</p> <p>当初の目標「一人当たりの CO₂削減 500ml、学校での CO₂削減 300 kg」を数値的にも大きく上回り「一人当たり 880ml・学校単位 448 kg」を達成することができた月もあった。児童一人一人の意識向上により回収量ランキングも1位をとることができた。</p> <p>○節電について</p> <p>節電に対しての意識はなかなか向上せず、「教室を使わないときは電気やエアコンを毎回消している」と答えた学級は83%で、移動教室時の電気スイッチオフは100%に届かなかった。3学期現在、誰もいない教室の電気とエアコンを消すように意識した行動が多くみられ、年度末の100%達成に期待している。</p> <p>○緑化（美化活動）について</p> <p>年度当初はボランティア活動に参加する児童は限定されていたが、夏休み明けの運動場の除草作業や秋の落ち葉掃き、卒業式や入学式を控えた3学期の花壇の整備や花を植える緑化活動等に参加する児童が増加した。</p>
見直し		<p>○場所と時間を設定した緑化活動には全児童が参加することができた。朝のボランティア活動への参加は、5・6年生を中心に学校美化に貢献している。学年や学級により少々意識に差があるため、「さわやかふるさとデー」など、3学期にも取り組むことができる活動を積極的に啓発していきたい。</p> <p>○高学年は自分たちの取組やボランティアに対する意見を集約し、話し合い活動を通して PDCA 活動を自分たちで行うまでに育ってきた。</p> <p>○中学年は総合の時間に、地域産業による環境出前講座で循環型社会の実現の大切さ</p>

		について学んだことで、家庭でもごみを分別する意識の高まりが感じられる。
--	--	-------------------------------------

(2) 成果と課題

成 果	課 題
<p>○廃油リサイクル活動を取り入れることで、家庭や地域と学校が一つになり、環境問題に取り組むことができた。一人一人が意識を高め、組織として目標達成に努めることで、回収ランキングも上位をキープすることができ、達成感も味わうことができた。</p>	<p>△学年・学級によって環境に対する意識の違いを感じることがあった。SDGs の 17 項目のうち環境問題にかかわりの深い「6・7・11・12・13・14・15」の項目や他校の実践例などを参考に、これからも児童の生活に根付いた環境 ISO を広げていきたい。</p>
<p>○朝のゆげっ子活動や、「さわやかふるさとデー」に参加する子どもが増え、ボランティアを通して美化活動に対する意識が高まっている。</p>	<p>△児童が実際に体験した事項に関しては、学習後も主体的なボランティア活動が継続している。特定の学年だけではなく、学校行事として体験学習等を積極的に取り入れ、児童が取り組む意味を実感することができる機会を増やすよう提案していきたい。</p>
<p>○手を洗う際に蛇口を閉めて手を洗っている児童の姿が多く見られるようになった。</p>	<p>△各委員会による活動だけではなく、関連する委員が互いに協力し合い、児童主体の取組を広げていくと、低学年でも分かりやすく参加しやすい実践になるのではなかろうか。来年度は環境委員会を設置し、児童が取り組みやすい場を設定する方向で全職員・全児童の理解を得たいと思う。</p>
<p>○各学級での節電に対する意識向上が見られ、児童の主体的な行動が多くなった。</p>	
<p>○職員室では、OA 機器や空調機器の切り忘れ 0 の声掛けを職員同士でこまめにする事で概ね切り忘れがなくなった。</p>	
<p>○PTA とも協力することで、学校一丸となって環境問題に取り組むことができた。</p>	<p>△ごみ削減への取組やリサイクル活動、節電対策など、学校版環境 ISO 活動を活性化していくために、話し合いの機会を増やし、より具体的な数値目標を取り入れることができればいいのではないかと考える。</p>